

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190101212		
法人名	有限会社 ケアメール		
事業所名	グループホーム啓明あかしあ かえで館		
所在地	札幌市中央区南12条西20丁目2-26		
自己評価作成日	2025年11月30日	評価結果市町村受理日	2026年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム啓明あかしあでは、安全、安心、自立支援を柱に利用者様一人ひとりに寄り添ったケアを実施しています。  
散歩を取り入れた日常的な生活リハビリ、ミスト浴の活用により快適な入浴支援、季節行事を通じた社会参加と生活の活性化や職員の育成等、日常生活の生活の質を高める取り組みを総合的に推進しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvosyoCd=0190101212-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvosyoCd=0190101212-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	2025年12月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム啓明あかしあ」は、札幌市内の閑静な住宅地に立地している開設2年目を迎える事業所である。3階建ての1階は事務所や多目的ホール、2階と3階がグループホームになっている。明るく開放感のある居間や食堂には季節の装飾や利用者の作品が飾られており、家庭的な温もりの中でゆっくり寛ぐことができる。開設当初より、利用者と一緒に地域の清掃や花植え、バザーなどに積極的に参加して地域住民と交流している。運営推進会議にも町内会役員が数名参加し、情報提供や意見交換が活発に行われている。多目的ホールの地域への開放や認知症カフェの開設も予定しており、更に地域に根ざしたグループホーム作りを目指している。管理者は、職員とコミュニケーションを取りながら意見や提案に耳を傾けるとともに、計画的に研修を実施して働きやすい職場環境の整備と職員の資質向上に熱心に取り組んでいる。冬季も含め、年間を通しての散歩や外出行事など様々な場所に積極的に出かけている。食事面では、年間行事に合わせた食事や出前、利用者のリクエスト献立、畑の野菜を使用した食事などを楽しんでいる。1階には特殊浴槽もあり設備面でも充実している。管理者を中心に、全職員で一人ひとりの尊厳を大切に、生きがいのある生活が送れるように各利用者にゆっくり寄り添いながら温かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員入職のオリエンテーション時に理念を理解できるように説明している。また、理念を朝礼・夕礼で斉唱し、職員で共有、毎日のケアの中で理念に立ち返り選択できるように繋げている。	法人共通理念と事業所独自の職場モットーの中に、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言が含まれている。廊下や各ユニット、多目的ホールなどに掲示している。会議で確認したり、理念のテストを実施して理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関係性を築くため、散歩の際のゴミ拾いを行い地域の一員として活動、交流している。花壇の花を希望時、差し上げている。	町内会の花植えや清掃、バザーなどに利用者と一緒に参加している。今後は事業所行事や「あかしあカフェ」に近隣の方を招いたり、ボランティアも受け入れたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通して認知症の理解や支援を深め、地域の人々に向け拡散するよう支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員と利用者様のご家族とともに話し合いを重ねサービスの向上に活かしている。	地域包括支援センターや町内会、家族が参加して2か月ごとに開催し、地域防災や感染対策を取り上げている。今後は会議案内にテーマを記載し、参加できない家族の質問や意見も会議に反映させ、質疑応答も議事録に記載する予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者と連絡を取り合いながら、協力関係を築き、事務所の実情やサービスの向上に努めている。	開設時に市役所からアドバイスなどを受けている。書類の提出はインターネットで行い、困ったことがあれば電話で相談している。利用者の受け入れについて区役所に相談したこともある。生活保護担当の職員と定期的に情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全職員が禁止となる身体拘束となる行為を正しく理解し、身体拘束0を目指し内外の研修を行い取り組んでいる。	マニュアルを整備し、新人研修と勉強会で「禁止の対象となる具体的な行為」を確認している。委員会も3か月ごとに開催し、議事録で情報を共有している。今後は勉強会の資料を分かりやすく整備し、委員会議事録の書式を統一して身体拘束の有無、委員名などを見やすく記載したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内において研修を行い、虐待について学習し、注意喚起を行いながら虐待防止に努めている。		

グループホーム啓明あかしあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内外で研修に参加し、学習する機会を設け、関係者と交流しながら個々の必要性を活かせるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様などの不安や疑問を解消しながら、契約の場を設け、十分な理解を得られるよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内にご意見ボックスを置いたり、職員や管理者が都度意見や要望を受け付けており運営に反映している。	家族アンケートを2回実施している。面会時や電話で利用者の様子を伝えて家族の意見や要望を聞き、記録に残している。今後、情報を継続的に共有できるような記録方法の検討も考えている。毎月、事業所新聞と個別便りを家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や提案を常時受け付けている。また月2回の全体会議内や個人面談の機会を設けている。	管理者は、普段から各職員とコミュニケーションを取りながら意見や提案を聞き取り、業務の流れを変更したり備品などを購入している。入職時と1～2か月ごとに個人面談を行っている。職員は各利用者を担当し、介護計画の評価も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実務や勤務態度など多岐に渡って個々の状況を把握し、各々がレベルアップしていけるよう労働環境などの整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員自身のケアの向上とレベルを把握し、法人内外での研修機会の確保や実際に勤務に就きながら研鑽を積んでいけるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の出向や研修を通して職員が交流する場をつくり、活動を通じてサービスの質のレベルを上げるよう取り組んでいる。		

グループホーム啓明あかしあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様からの情報を細かく丁寧に聞き取りながら安心と信頼関係を構築するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの情報の聞き取りを行い、信頼関係を築ける関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族に必要な支援を見極められるよう丁寧な聞き取りを行い、多様なサービスを受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員と一緒に共同生、共存するように支援している。掃除と盛り付けや食器吹き等、利用者様に手伝いをして頂きながら、関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族様のお互いの絆を尊重しながら、利用者様をより支えていけるように教えて頂いたり相談等を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様がここまで大切にしてきた友人、家族や場所等の関係を保てるように支援している。	知人から手紙が届いたり、家族と一緒に友人が来訪する利用者もいる。携帯電話で知人や家族と話をしている方もいる。家族と一緒に自宅に帰ったり、馴染みの美容室に出かけている。買い物や外食、墓参りなどで外出する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を壊さないよう常に慎重に関わりあい、誰もが孤立しないように支えるよう支援している。		

グループホーム啓明あかしあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も培った関係性を維持しながら必要に応じてその後のフォローアップをしながら相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	異なる一人一人の生活の希望などの把握を常々関わりを持ちながら本人の意向に沿うよう検討実施している。	会話や表情、仕草などから思いや意向を把握している。フェイスシートに生活歴や趣味などを記載して1年ごとに更新しているが、情報が充実しているとは言えない。	センター方式シート(B-3)を活用し、趣味や嗜好、本人の暮らしの情報を具体的に記録に残し、変化に応じて追記や更新を行うよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との対話や行動などから以前の暮らし方や生活環境などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様との関わりから現在の暮らし方などの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の暮らしをよりよくする為にご家族や本人、ケアマネージャーなどと話し合い、意見やアイデアを取り入れながら、共有した情報をもとに現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心に利用者担当職員の評価を基に話し合い、3~6か月ごとに介護計画を作成している。今後は家族の意向を具体的に聞き取り、介護計画1表と2表を更に連動させたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の状態やケアに即した記録をタブレットに残し、情報共有しながらケアの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに柔軟に対応しながら支援やサービスの多機能化を支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しながら利用者様が個々の力を発揮でき、かつ生活を楽しんでいただけるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族の希望に沿いながら、医療連携を適切に行っている。	全員、協力医療機関の往診を月2回受けている。家族と外部に通院する時は口頭で本人の様子を伝えているが、健康状態を詳しく伝える必要がある時は職員も同行している。往診と受診は個別に記録している。	

グループホーム啓明あかしあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフが日常で接した中での気づきや情報を訪問看護師に相談や伝達をして共有し利用者が適切な医療や受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者は病院関係者や医療機関と協同し、情報交換や相談を行い入退院に備えての関係づくりをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が利用者様の状態を早期からご家族と話し合い、事業方針を説明・共有し、医療関係者を交えながら支援に取り組んでいる。	利用開始時に「重度化・終末期における対応指針」にそって事業所の可能な対応を説明し、看取りの意向も確認している。体調変化に応じて主治医と家族、事業所で方針を話し合っている。看取りも行う予定であり、看取り研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生などに備え、定期的に社内訓練やマニュアルの読み返し、心肺蘇生の訓練などを通して実践に対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通して地域の協力体制を築いている。職員は避難訓練に参加し避難などの仕方を身につけている。	防災設備会社の協力の下、年2回昼夜の火災を想定した避難訓練を実施し、地震想定自主訓練も行っている。開設時に救命講習を行い、ケア別の対応も話し合っている。地域と協力体制は築いているが、避難訓練に参加は得ていない。	年1回は、地域住民の協力を得た避難訓練を実施するよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個々の性格を尊重しつつ、丁寧な言葉遣いや居室などへのドアノックなど、プライバシーを損ねない対応をしている。	接遇研修を行い、申し送りは番号を使用している。利用者への呼びかけは苗字に「さん」付けとし、声かけで気になる点はその都度注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者様と対話・傾聴を行い、利用者自身で意思決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にしながら、希望に合った一日を過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容時に身だしなみを支援したり、更衣時に季節に合わせた服装を選んで着て頂けるよう支援している。		

グループホーム啓明あかしあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と対話しながら食事の好み等を聞いたり、食器拭きなどの片付けも一緒に行っている。	配食業者の食事を利用している。行事食は利用者のリクエストに応え、「あかしあカフェ」ではメニューから選ぶ楽しさがある。畑の野菜を使用した豚汁や鍋、おでんも味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事量の調節、栄養バランスに応じた食事を提供している。また、各々の適切な水分量の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、個々の利用者様に応じた口腔ケアの声掛けや、一部介助、見守りを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄状況を記録することで排泄のパターンを読み取っている。また習慣を活かしてトイレ排泄や自立に向けた支援をしている。	自立している利用者が多いが、全員排泄チェック表でパターンを把握し、適時声かけを行っている。座位が保てる方は日中、夜間ともトイレでの排泄を支援している。利用開始後、布下着に改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の確保と散歩や体操による運動の実施など予防支援に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調や希望に沿った支援をしている。	一人週2回の入浴支援を行っている。自立している利用者は見守りに対応し、浴槽に浸かれない利用者は特殊浴槽を使用し、体調によっては清拭を行っている。自身のペースで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣や状況に応じて休息をとったり入眠できる支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を利用し確認をし、薬の変更があった際には体調の変化がないか様子観察を行っている。また服薬支援の際には誤薬が無いよう薬杯を使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意とする分野を活かし、個々の能力が発揮できるよう支援している。		

グループホーム啓明あかしあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ利用者様の希望に沿って散歩をしたり、行事で美術館や紅葉見学に出掛けている。また、ご家族で買い物に出掛けられるよう支援している。	季節のよい時期は車いすを利用する方も事業所周辺の散歩に出かけている。冬季も利用者の希望で散歩の支援をしている。月に1度の外出レクリエーションでは動物園や美術館、市内の様々な施設に家族も一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々人に応じて使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じてスムーズにできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が今までの生活に近い環境を造っている。また自宅と同じように居心地よく過ごせるような工夫をしている。	明るい共用空間は温室度が保たれ、食卓テーブルとテレビが設置されたソファコーナーとに分かれている。壁には季節の装飾のほか、利用者の折り紙作品も飾られている。台所から利用者を見守ることができる造りで、思い思いの場所で寛いでいる姿が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に一人掛の椅子や2~3人掛のソファを配置し落ち着ける場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の部屋に使い慣れたものや写真、折り紙や塗り絵などの創作物を配置して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室ドアには表札があり、自室が分かりやすくなっている。クローゼットやベッドが備え付けられ、テレビや椅子、整理棚が持ち込まれている。家族写真や趣味の物、自身の作品、孫からのプレゼントカードなどが飾られ、落ち着いて過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ位置がわかるような張り紙をしたり、利用者様が躓かないよう且つ車椅子が通れるようテーブルや椅子の配置換えを定期的に行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190101212		
法人名	有限会社 ケアメール		
事業所名	グループホーム啓明あかしあ ポプラ館		
所在地	札幌市中央区南12条西20丁目2-26		
自己評価作成日	2025年11月30日	評価結果市町村受理日	2026年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム啓明あかしあでは、安全、安心、自立支援を柱に利用者様一人ひとりに寄り添ったケアを実施しています。  
散歩を取り入れた日常的な生活リハビリ、ミスト浴の活用により快適な入浴支援、季節行事を通じた社会参加と生活の活性化や職員の育成等、日常生活の生活の質を高める取り組みを総合的に推進しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoyoCd=0190101212-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoyoCd=0190101212-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2025年12月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ポプラ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員入職のオリエンテーション時に理念の説明、また習得のためテストを実施。理念を朝礼・夕礼で斉唱し、職員で共有、ケアのポイントで理念に立ち返り選択できる様に役立てている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩で出会う近隣の方々に挨拶し、道路の花壇の草むしりや清掃活動しながら地域の一員になれるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の方から認知症の相談を受け、ご説明、支援をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回催す運営推進会議で、利用者様のご家族や地域町内会・市担当者の出席を仰ぎ、活動内容や事故を報告し、皆様からの意見を共有し、サービスの質向上に継続的に取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と月次の行事報告や事故報告書の速やかな提出などで、定期的に連絡を取り、事業所の活動内容を共有しながら、良好な連携が出来るように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を通して、身体拘束の具体的な行為を正しく理解し、これらの禁止を徹底し、利用者が安心して過ごせるように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を通して、高齢者虐待防止法について学び、日々の介護の中で利用者様の尊厳を守り意識するように努めている。		

グループホーム啓明あかしあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ポプラ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を通して、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族がご理解・納得して頂けるように、十分な時間を取り、回数を重ねて丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族からのご意見・要望を日々伺い、管理者から全職員に到達・共有し、運営に活かしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見を月一回の全体会議や日々の朝礼・夕礼で吸い上げ、運営に活かすようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、労働時間など各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の勉強会や日々の業務を通してスキル向上を図り、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社への研修や他事業所との交流があり、サービスの質を向上させる取り組みをしている。		

グループホーム啓明あかしあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ポプラ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の気持ちに寄り添い、不安や要望を丁寧に聞きながら、安心して過ごせる信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや不安に丁寧に寄り添い、安心して相談できる信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の置かれている状況を丁寧に把握し、必要な支援を見極め、他のサービスも説明し、安心して利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の尊厳を守り、職員と共に過ごす時間を大切にし、安心して生活が出来るような信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との信頼関係を大切にし、状況変化の報告を随時行い、連携を取りながら共に本人を支えていく関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にしてきた過去の記憶や写真類など、日々のお話に耳を傾け共感し、丁寧に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者様の性格や行動を把握し、新規利用者様が来られた時など、席や機の配置見直しなど、良好な関係を保てるように留意し支援に努めている。		

グループホーム啓明あかしあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ポプラ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連携施設に入居が変更になっても困りごとや相談事など入居者、家族の継続的な支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者様の言動に耳を傾け行動を把握し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	医療連絡書やフェイスシート、ご本人・家族の話から、生活歴・暮らし方や、サービス利用の経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月ごとの体重変化、朝夕・入浴前のバイタル測定や顔色・足のむくみの確認、歩行状況等を常に観察・記録し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族・ケアマネージャー・訪問医・看護師と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア内容・食事と摂取水分量・排泄状況・医療内容・入浴情報などをモバイル端末に記録し、管理者・別フロアの担当者や情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のADLの変化に対応するため、ポータブルトイレの設置やリクライニング車椅子の配置、浴室内の回転いすや浴槽内の椅子など、安心して過ごせるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会から、広域避難場所や一時避難場所と貯蔵品などの情報を入手。緊急時(火災や地震)の安全確保に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約内科医による月二回の訪問診療、必要時の歯科医訪問診療を通じて、ご本人の状況を把握し家族と情報共有、ご希望を確認し、適切な医療を受けられるように支援している。		

グループホーム啓明あかしあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ポプラ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回看護師が訪問。介護職員は日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、訪問看護師に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ケアプランや保険証・お薬手帳を直ぐ取り出せるようにし、利用者が入院した際、安心して治療できるようにしている。また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有。看取り契約を含め、関係医療機関と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有。看取り契約を含め、関係医療機関と共にチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成。研修会で全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会から、広域避難場所や一時避難場所と貯蔵品などの情報を入手。避難マニュアルを作成、避難訓練を実施し、緊急時(火災や地震)の安全確保に努めている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように丁寧で優しい言葉かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がケアの決定ではなく、本人の気持ちに寄り添い希望が話せる環境づくりにとりにくんでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、散歩や体操・各種レクリエーションのプログラム・歌番組など複数考え、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時の整容や更衣時の服の選定など、ご本人の希望を確認し、身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		

グループホーム啓明あかしあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ポプラ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、温かい状態での提供を心掛けている。食後の食器拭きのお手伝いは人気です。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、刻みのサイズを変更。毎月体重の変化を記録し、ご飯の量を検討。水分量は、かかりつけ医とも相談し、体のむくみの状態を見ながらコントロールしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、清潔で快適な状態を保てるように心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	就寝時間帯、夜勤者が各人の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を実施、排泄の失敗やおむつの使用を減らす支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や運動の工夫はもとより、かかりつけ医や訪問看護師と連携し、投薬も含めた便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の入浴希望を聞き、時間帯を決めて入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		

グループホーム啓明あかしあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ポプラ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を尊重し、午前中散歩に出かけるよう努めている。月に一度、外部施設訪問を計画し、季節感溢れる体験を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に利用者は、お金を所持していません。家族からの預かり金があり、希望があればコンビニエンスストアやスーパーに同行し、購入することは支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望すれば、家族への電話を取り次いだり支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の掃除や整理整頓に努め、壁に季節感のある装飾をして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中では、固定の位置決めせず、その時の気分で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全ての壁際に手すりがあり、車椅子の方も出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		